



平成26年度 開学記念フォーラム

在校生が、近未来の森林文化像を探るフォーラムとして、涌井史郎学長による「歴史的転換点にある我国の林業と森林社会」と題する講話、そして歴代の卒業生による活動実践事例報告の後、卒業生と在校生によるパネルディスカッションの3本立てで5月19日に開催しました。

学長からの講話では、人は森から生まれ、常に緑を友としてきた。健全な森林は、自然と人と、人と人、人と社会と、都市と農村を、過去と未来を繋ぐ「つなぎ手」であることが示唆されました。

卒業生の活動実践事例では、各科（各講座）から6人の卒業生を迎えて、卒業後に携わってきた仕事や事業についての報告いただきました。それを受けてパネルディスカッションが行われました。

- ・成果主義では長続きしづらいので、多様性の中で自分が泳いでいける場を
- ・持続可能な経営には、補助金に頼るのではなく、積極的な自主企画を
- ・仕事とは「人に仕える事」、嫌いな人の言うことも聞かなくてはならないなどの意見交換がされました。

現地現物主義に則った卒業生の実践事例から、在校生自身が卒業後の自分の姿を想像できるフォーラムとなりました。



エンジニア科1年生 春のキャンプ

エンジニア科1年生では、4月30日～5月1日にかけて演習林でキャンプ合宿を実施しました。

初日はあいにくの雨で、ナタ研ぎやロープワークをして雨をやり過ごし、夕方から学内のかまどで夕食のカレーを作りました。火起こしや羽釜での炊飯など、うまくできるか心配でしたが、全員で協力した結果、美味しいカレーを作ることができて一安心。夜は学内にある複数の自力建設の建物（過去のクリエイター科の木造建築講座の学生らが自分たちで建てた建物）に分かれて寝袋泊しました。

二日目は朝から晴れたので、演習林に入り4班に分かれて、地図を片手に地形を読みながら、チェックポイントの課題を解いて回るオリエンテーリング実習を行いました。班毎に通ったルートは異なりましたが、全ての問題を解いて、最終目的地に到達することができました。これでもう演習林で迷うことはないかな？

キャンプでのグループ行動は、入学したてで、まだぎこちない学生間の仲間意識を高めることに大いに役立ったと思います。次は夏の登山合宿が待っています。こちらもお楽しみに！

森と木の就職・転職セミナー

🌲 森林・林業 🏠 山村活性 🌿 環境教育 🏠 木造建築 🏠 木工・木育

名古屋 7月6日（日）・東京 7月13日（日）

オープンキャンパス

7月27日（日）・8月23日（土）

教員とじっくり話ができるエブリディ・オープンキャンパスもあります。詳しくはホームページから

森と木のクリエイター科



林業再生



山村づくり



自然体験活動指導者
インタープリター養成



木造建築



ものづくり

森と木のエンジニア科



(森林・林業、木材利用)

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエイター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

森林から木材・暮らしへ

クリエイター科の1年生は、入学後のガイダンスが終わると、各講座の専門科目に入る前に全員が「森林から木材・暮らしへ」という総合ガイダンス的な授業を75時間受けます。アカデミーで展開する学びの全体像を講義・実習・現地視察などを通じて概観することで、自分の専攻分野をしっかりと見定めるとともに、他講座との関係を理解し連携を図っていくことを狙いとしています。まさに森林文化アカデミーらしい総合的な授業です。26年度の実施例を紹介します。

第1ステージ「身近な自然を認識する」

まずは「樹木と森林、人との関わりを知る」ことから始まります。

自然生態系の仕組み、里山の人と自然、山村社会の現状、自然の恵みの育て方などの座学に始まり、翌日はアカデミー近く古城山（標高437m）の中腹まで登りました。途中で樹木の解説や、森林の見方などを学びながら時間をかけてゆっくりと歩きます。目的地の東屋から森林文化アカデミーを見下ろすと、アカデミーが田んぼと接続し、後ろに山が控えている典型的な中山間地の環境に立地していることが分かります。



第2ステージ「林業を知る」

林業分野ではまず、日本と岐阜県の森林の現状、林業の仕事と森林資源の管理、最近の林業現場と経営スタイルなどについて学びます。そして、翌日はいきなり林業の現場へ郡上市へ出かけて地帯えと植栽の体験実習を行いました。林地残材を片付けて、ヒノキを植栽するという、ほとんどの学生にとって初めての体験です。最後の1日は、あいにくの雨の中、アカデミーの33haの演習林で過ごしました。樹木と光、森林の階層構造、林齢と林型、架線集材について、そして丸太材積、木材価格など林業の基礎的な知識を現地現物で見て学びながら、ゆっくりと演習林を散策しました。



第3ステージ「木材利用を知る」

岐阜県の1300年の歴史を旅する「ものづくりタイムトラベル」を実施しました。まず一行を乗せたバスは100年前の岐阜県へ。郡上市の明宝歴史民俗資料館には村民が集めた47000点の民具が収められ、まさに100年前の岐阜の暮らしがうかがえる資料館です。見学中に、森林文化アカデミー卒業生の諸橋有斗さんが駆けつけ、300年続く郡上踊りを支える郡上下駄を地元のヒノキで生産するための研究を行い、卒業後、事業を立ち上げた体験を話してくれました。過去を知ることが新しいビジネスのヒントにもなる好例です。

最後は未来を訪ねるために、バスは家具の一大産地 飛騨高山へ。椅子やテーブルの出荷額では日本一を誇ります。大手家具メーカーである飛騨産業を訪ね、木工の最先端技術に触れました。刃物や製材所はいらなくなるかもしれない、木をゴムのように柔らかくする技術やスギ丸太をそのまま圧縮して角材にする技術。高山ではこうした最先端の研究を行いながら、これからも木工技術のトップランナーであり続けようとしています。飛騨の匠の歴史は、現在進行形で続いています。



第4ステージ「樹と木とのつきあい、これからの暮らし方を考える」

最終ステージでは、「森を自然を、頭ではなく身体全体で感じよう、森と一体化しよう」と呼びかけました。森や木に関わり社会を変えていこうと考えている人間にとって、森での豊富な原体験や、わたしたちが森の一部であるという意識が身体に染み付いていることが全てを支えます。まずは、森の松ぼっくりを使ってのアイスブレイク。次に、「森のようちえん」の子どもたちが見つけたシマヘビを怒らせないように全員の手の上を移動してもらうことに挑戦!ヘビは捕まえようとする怒りますが、手の上を移動してもらおうとすれば大丈夫。予想外のヘビの感触に感激していた人も。自然を制しようとするのではなく、自然のリズムに合わせる事が大切なのです。

そして今度は裸足になり、足の裏で山を体感します。まだ冷たい沢を歩いたり、コケの上を歩いたり、葉っぱの上を歩いたり。今まで閉じていた感覚が少しずつ開いてきます。最後は皆で森の中で、気持ちいい風や鳥の声を聴きながら、ナナオ・サカキの詩「これで十分」を読んでふりかえり。



森と木のエンジニア科 入試日程

推薦入試	2014年11月 1日(土)
一般入試1	2014年12月20日(土)
一般入試2	2015年 1月24日(土)
一般入試3	2015年 3月 7日(土)

※一般入試3は一般入試2終了後、定員数を満たしている場合には実施しません。

森と木のクリエイター科 入試日程

一般入試1	2014年11月 2日(日)
一般入試2	2014年12月21日(日)
一般入試3	2015年 1月25日(日)
一般入試4	2015年 3月 8日(日)

※一般入試4は一般入試3終了後、定員数を満たしている場合には実施しません。

インフォメーション

岐阜県立 森林文化アカデミー
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地
tel : 0575-35-2525 fax : 0575-35-2529
mail : info@forest.ac.jp

ホームページ : <http://www.forest.ac.jp>
アカデミーブログ : <http://gifuforest.blogspot.jp/>
facebookページ : <http://www.facebook.com/forest.academy>

※最新情報はホームページをご覧ください。